

目を覚ましていなさい

マタイによる福音書	24:42 だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。
	25:13 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」
	26:38 そして、彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」
マルコによる福音書	13:33 気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。
	13:35 だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。
	13:37 あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」
	14:34 彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」
使徒言行録	20:31 だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。
コリント信徒への手紙 I	16:13 目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく強く生きなさい。
ペトロの手紙 I	5:8 身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

私たちの信仰生活にも、「危機感」を持つことが大切です。ペトロの手紙一 5 章 8 節には、「身を慎んで、目を覚ましていなさい」とあります。これは恐れを煽るのではなく、油断が心を弱らせ、神から目を離してしまう危険を教えます。

主イエスは「目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである」と語られました（マタイ 24：42）。私たちは、信仰の歩みにおいて、日々の忙しさや慣れによって霊的な居眠りに落ちやすい存在です。

また箴言 22：3 には、「思慮深い人は災難が来ると見れば身を隠す」とあります。これは現実的な危機だけでなく、心を鈍らせる誘惑や怠惰にも目を向ける知恵です。

危機感とは、不安を持つことなく、神に依り頼む姿勢です。目を覚まし、祈り、み言葉にとどまる時、私たちはどんな試練の中でも揺るがない信仰を保つことができます。今日も主に心を向け、備えを整えて歩んでいきたいと思います。